ふくしま教育ニュース第63号
令和7年7月1日発行
発行　福島県教育委員会
編集　福島県教育庁教育総務課
福島県福島市杉妻町2番16号　電話（024）521－8658　FAX（024）521－7969

「ふくしまを十七字で奏でよう」

ふくしま絆ふれあい支援事業「ふくしまを十七字で奏でよう」の作品を今年度も募集します。
子どもと大人、子ども同士の二人一組でペアを作り、日常生活などでの共通体験をとおした「絆部門」、ふくしまへの想い、復旧・復興などに関する「ふるさと部門（県内外から応募可能）」に作品をお寄せください。

1　募集期間　【県内】幼保・小中学校：令和7年6月9日（月）～8月29日（金）
　　高校・特別支援学校：令和7年6月9日（月）～9月５日（金）
　　【県外】全　　校　　種：令和7年6月9日（月）～9月５日（金）
2　応募方法　応募用紙は各学校配布のものまたは社会教育課ホームページよりダウンロードしてご利用ください。（高校生は応募フォーム可）
3　応 募 先　作品は各学校またはお住まいの地域の教育事務所、県外の方は直接社会教育課へ御提出ください。
※詳しくは、社会教育課のホームページをご覧ください。
福島県　十七字　検索

令和６年度　最優秀作品より

「絆 部 門」
お手伝い　切りたいまぜたい　よそいたい　（子）
倍かかる　それを覚悟に　頼みます　（母）

「ふるさと部門」
このせきに　パパもすわって　いたのかな　（子）
我が母校　時が流れて　子の母校　（父）

ふくしまっ子ごはんコンテスト～自分の朝食や食習慣を見直してみませんか～

献立の作成や食材の準備、調理など、ごはんを主食とした一連の食事作りを通して、生活習慣の改善や朝食摂取を基本とした望ましい食習慣の形成を図るとともに、自ら健全な食生活を実践する力（食べる力）の育成と、地場産物について関心を高めることを目的にごはんコンテストを実施します。
小学生は朝食作り、中学生は弁当作りを実践する機会として、アイディアあふれる献立を応募してみませんか？優秀作品には副賞（お米、乳製品など）が贈呈されます。

＊応募期間　令和7年7月1日（火）から各学校が指定する日まで
＊応募方法　応募用紙に材料や作り方を書いて、小学生は「（作った）1人分の朝食」
　　中学生は「（作った）1人分の弁当」の写真を貼ってください。
＊応 募 先　学校の担当の先生へ提出してください。
福島県健康教育課　検索　⬅詳しい応募方法はココ！

令和6年度小学校上学年の部
最優秀作品
暑い夏を乗り切る！
カラフル朝ご飯

令和６年度中学校の部
最優秀作品
地域密着！
大好きがいっぱいつまった
栄養満点お弁当

令和７年度中学生・高校生の科学・技術研究論文
「野口英世賞」募集
科学する心の育成を図り、明日の社会の発展を担う優れた人材を育成するため、科学及び技術に関するテーマに基づく研究論文を募集します。

令和７年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文
「朝河貫一賞」募集
国際性豊かな人材の育成を目指して、国際社会における在り方・生き方などについての論文を募集します。

◆募集対象　県内の中学校（含む中学部）・高等学校（含む高等部）の生徒
　※中学校には、義務教育学校後期課程を含みます。
◆募集期間　令和７年９月１日（月）～９月８日（月）（必着）
◆提 出 先　論文は在籍している学校の先生に提出してください。

「モラル・エッセイ」コンテスト募集
あなたの感性が、
誰かのこころをあたためる

ふだんの生活の中で感じた心温まる話、あなたが体験した話、今伝えたいメッセージなどを、ぜひ、お聞かせください。

募集対象　県内の中学生（含む中学部）・高校生（含む高等部）・一般の方々・避難された方も含む
応募期間　令和7年7月7日（月）～8月29日（金）
表　　彰　優秀な作品を表彰します。
福島県義務教育課　モラルエッセイ　検索

相談窓口のお知らせ
いじめ、不登校、体罰などのさまざまなお悩みに対する相談窓口を開設しています。一人で悩まず、お電話ください。悩みを抱えているお子さんや保護者の方々が対象です。

〈いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談電話〉
月～金　10：00～17：00
「ダイヤルSOS」
0120-453-141

〈子どものための24時間電話相談〉
毎日24時間いつでも電話できます。
「ふくしま24時間子どもSOS」
0120-916-024

Well-beingを育む
第７次福島県総合教育計画
「マンガ」と「動画」

福島県教育委員会では、第7次福島県総合教育計画において掲げている「学びの変革」や「福島ならではの教育」、「学校の在り方の変革」について、県民の皆さまにわかりやすく身近に感じていただくため、マンガと動画を作成しました。大人の皆さまが子どもだった頃とはだいぶ変わってきている「ふくしまの教育」の今について、マンガと動画でご覧ください。

https://fukushimapref-edu.note.jp/n/n8fe3762f8acf

※県教育委員会ではHP等の掲載広告を募集しています。詳しくは　福島県教育委員会　広告　検索

ここから下の段は広告です。掲載の広告は県教育委員会の事業とは関係ありません。

2025年4月1日 新登場!
必要な時に 安心を上乗せ
安心がさらに大きくなるね
死亡保障特約

基本コースに月掛金プラス 1,000円 死亡重度障害 400万円上乗せ!
お申し込みは 満18歳～満49歳の健康な方 保障期間 18歳～60歳まで
※基本コース（「総合保障型」・「入院保障型」）と同時にお申し込みください。死亡保障特約のみではお申し込みいただけません。

都道府県民共済グループ
福島県民共済
0120-282-869
【受付時間】平日 9:00～17:00
【共済取扱団体／福島県認可】
福島県民共済生活協同組合
〒960-8031 福島市栄町6-6 福島セントラルビル9F
くわしい保障内容はホームページをご覧ください。
この共済は生協法に基づき厚生労働省の認可を受けた事業で、ご加入者の暮らしの安心を守ることを使命としています。

リサイクル適性Ⓐ　この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報誌へのご意見をお寄せください
k.kouhou@pref.fukushima.lg.jp

キビタン©福島県

ふくしま教育ニュース

2025年7月　第63号　編集・発行　福島県教育委員会

子どもから大人まで　ふくしまの「Wow！」に触れる夏休み

福島の地下に埋もれた秘密を解き明かす福島県文化財センター白河館・まほろん。印象派の色彩、郷土の作家の熱意あふれる作品を見て、心が踊る福島県立美術館。過去の歴史を一覧でマンガのように学べる福島県立博物館。今年の夏は、ふくしまの「Wow！」を見つけに行こう！

福島県文化財センター白河館・まほろん
企画展「U－15の考古学－発掘調査で何がわかる？－」

歴史を学び始める小・中学生のほか、初めて考古学に触れる方を対象とした企画展シリーズ。発掘調査で明らかになった昔の人々の暮らしや発掘調査の過程を出土品・写真・イラスト・ジオラマなどを用いて分かりやすく解説します。

会　　期　令和７年６月14日（土）～９月23日（火・祝日）
関連講座　「きみも考古学者１」令和７年７月26日（土）
　　「きみも考古学者２」令和７年８月６日（水）
※休館日や講座などの詳細はまほろんホームページでご確認ください。⇒

発掘調査のようす（イメージ）

福島県立美術館

会　期：令和7年7月19日(土)～9月28日(日)
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日、ただし9/22は開館）、9/24（水）

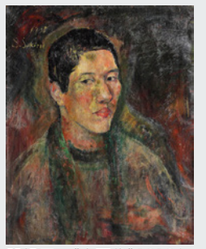
企画展「金曜ロードショーとジブリ展」

©Studio Ghibli

観覧料（日付指定予約制）
一般・大学生1,800円
中学・高校生1,500円
小学生　1,000円
未就学児無料

スタジオジブリ作品の魅力を時代の記憶と記録を通じて体感する展覧会です。会場では、これまで語られなかった秘密が明かされるほか、作品の世界に飛び込める空間が登場します。
※詳細は「金曜ロードショーとジブリ展」ホームページでご確認ください。
※ジブリ展観覧券で常設展もご覧いただけます。

常設展「第Ⅱ期コレクション展」


関根正二《自画像》1918年

観覧料
一般・大学生360円
高校生以下無料

福島県立美術館の所蔵作品から、ワイエス、関根正二、佐藤玄々など絵画・彫刻・工芸の名作を精選してご紹介します。
※関根正二…福島県白河市出身。20歳という若さで夭折。16歳で二科展入選、19歳で同樗牛（ちょぎゅう）賞（高山樗牛～安積高校にゆかりのある文学者）受賞。詩情豊かで幻想的な独自の画風を確立し、日本の近代美術史において重要な画家の一人とされる。

福島県立博物館

福島県立博物館は昨年12月より施設改修工事のため休館していましたが、4月より再開しました。これにあわせて総合展示室「自然と人間」の展示替えを行い、東日本大震災の関係資料（震災遺産）を常設展示でご覧いただけるようになりました。ぜひご観覧ください。
そして、今年はアジア・太平洋戦争が終戦してから、80年の節目。県民や県出身者が体験した戦争を振り返る企画展「私たちの戦争体験―アジア・太平洋戦争終戦80年―」（会期：7月19日～ 9月15日）を開催します。戦争体験者の語りを聴く機会が失われつつある今、博物館で戦争について考えてみませんか。企画展の詳細はホームページ（https://general-museum.fcs.ed.jp/）をご覧ください。

《展示資料》

総合展示室「自然と人間」

陸軍軍服（福島県立博物館蔵）

新設「あだち支援学校」

～ 入学式、校名・校歌・校章披露がありました ～

今年度、「あだち支援学校」が新たに開校しました。4月9日に本宮高校に併設された高等部において入学式が行われ、31名の生徒が新たな学び舎での生活をスタートさせました。

入学式の中で、校長先生から新しい校章と校歌が披露されるとともに、式辞の中で、生徒たちが楽しく元気に充実した学校生活を送ることへの期待が述べられました。また、新入生代表の渡辺天さんが、「自覚と誇りをもち、先生方に学び、友達と仲良く元気に勉強や運動を頑張ります。」と誓いの言葉を述べ、新しい学校生活に期待を込めました。

4月8日に入学式を行った小・中学部は、現在たむら支援学校春山校舎で教育活動を行っていますが、2学期からは二本松市の新校舎に移転することとしています。

～ 令和８年４月、船引高校 と 小野高校 が統合して～

あぶくま柏鵬（はくほう）高等学校となります。

現在の船引高校の校舎を使用します。

新たな総合学科（県中地区唯一）の高校が誕生！
キャリア教育＋多様な地域課題探究学習＝地域の核として活躍する人材育成

設置学科と定員
総合学科
1学年160名（4学級）

新実習棟建設予定

オールインワン高校

1年次
共通の学習内容
「産業社会と人間」

2・3年次
2つの系列・4つの分野を進路希望に応じて自由に選択

文理探究系列
四年制大学や短期大学、看護医療系などの専門学校への進学などを目指すための科目を設定

プロフェッショナル系列
地域を支える職業人として必要な知識や技能の習得を目指すための科目を設定

食農・6次化分野 / 情報技術分野 / ビジネス分野 / 福祉・保育分野

「デュアルシステム」※を導入

※デュアルシステム
学校と企業等が連携し、施設実習等を通して生徒を共に育てる教育制度。

特色ある学び

丁寧な学習指導と進路指導
・科目選択の推奨モデル「モデルプラン」の設定
・習熟度別授業やＴＴ等の個に応じた学習環境
・適性を見極めた進路指導の充実

自治体や企業等との連携
・地域と連携した地域課題探究学習
・企業と連携した商品開発
・地域イベントやボランティア活動への参加

体験型の学びを重視！

キャリア指導推進校として考えられる卒業後の進路

四年制大学
短期大学
看護医療系等
様々な分野の専門学校
民間企業等への就職
公務員

最新情報は、あぶくま柏鵬高校ホームページに随時、掲載していきます。ぜひ、ご覧ください。

～ 令和８年４月、平商業高校 と 四倉高校 が統合して～

いわき商業情報高等学校となります。

現在の平商業高校の校舎を使用します。

いわき地区の「職業教育推進校」として
地域の未来を担うことのできる人材を育成します！
県内初の「情報科（専門学科）」を設置！

設置学科と定員
商業科　１６０名（４学級）
情報科　４０名（１学級）

商業科

流通ビジネス科（８０名）
流通・販売のスペシャリストの育成
マネジメント分野：経営資源の管理、新たなビジネスの創造と展開について学ぶ〈主な学び〉・ビジネス・マネジメント・グローバル経済
マーケティング分野：新しい商品の開発、値段を決める仕組みなどを学ぶ〈主な学び〉・マーケティング・商品開発と流通

情報ビジネス科（４０名）
ＩＣＴ活用のスペシャリストの育成
ビジネス情報分野：会社で使用するコンピュータの知識・技術を基礎から学ぶ〈主な学び〉・情報処理・ソフトウェア活用

2年次より
マネジメントコース
マーケティングコース
に分かれ、より専門的な内容を学びます。

会計ビジネス科（４０名）
会計・経営分析のスペシャリストの育成
会計分野：会社の価値や利益などが分かる資料を作成する仕組みを学ぶ〈主な学び〉・簿記・財務会計

2年次より
システムコース
デザインコース
に分かれ、より専門的な内容を学びます。

情報科

ＩＴ科（４０名）
デジタル社会を支えるＩＴのエキスパートの育成
情報システム分野：プログラミングやシステム開発から運用保守までの流れを学ぶ〈主な学び〉・プログラミング・ネットワークシステム
コンテンツ分野：情報コンテンツを利用したサービスの知識や技術を学ぶ〈主な学び〉・情報デザイン・コンテンツ制作と発信

統合校の特色

きめ細かな学習指導と適性に応じた進路指導
高い専門性を身につけるための教育活動
情報活用能力を育成する教育内容の充実
自治体や企業等と連携した地域課題探究型学習
資格取得等の奨励

※学科名はすべて仮称です。

多様な進路の実現

就職
販売業、サービス業、事務職、総合職、金融業、公務員 等

進学
四年制大学
短期大学
専門学校

最新情報は、いわき商業情報高校ホームページに随時掲載していきます。ぜひ、ご覧ください。

全国産業教育フェア「さんフェア福島2025」を開催します！

全国産業教育フェアは、福島県では初の開催となります。農業、工業、商業、水産、家庭、特別支援などの専門高校で学ぶ全国の生徒が集結して、授業で制作した作品を展示したり、培った技能を大会形式で競い合ったりします。専門高校生の日頃の学習成果を見ることができる貴重な機会です。入場無料ですので、ぜひ、足をお運びください。

開催期間　令和７年 10 月 25 日(土)～ 26 日(日)
会　　場　ビッグパレットふくしま　郡山総合体育館
郡山女子大学　聖光学院高等学校

詳しくは「さんフェア福島」のホームページをご覧ください。

働き方改革のためのワークショップの開催

昨年度、文部科学省「学校における働き方改革の推進に関する調査研究」受託事業者として実績のある、株式会社「先生の幸せ研究所」によるファシリテートのもと、働き方改革推進のためのワークショップを複数の県立学校で開催しました。和気あいあいとした雰囲気の中、活発な話し合いがなされ、学校の実態に応じた業務改善について具体的なアイデアが多数提案されました。提案された解決手段ですぐに実行できるものは実行し、さらに議論が必要な提案については各学校において引き続き対策が検討されていく予定です。

今年度も同様の取り組みを実施してまいります。保護者・地域の皆さまにおかれましても、学校の働き方改革について引き続きご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

県立高校では全日制課程の授業時数の見直しを進めています

週当たり30単位時間（5日×6時間）を標準として編成します。
生み出された「余白」で

- 「学びの変革」→生徒が主体的に課題を設定し、学習を進める時間を確保
- 「学校の在り方の変革」→教職員が授業の準備や学習評価にかける時間を確保

を実現していきます。

詳しくは、福島県教育委員会ホームページ「教職員働き方改革アクションプラン」をご覧ください。

	月	火	水	木	金
1	○○	○○	○○	○○	○○
2	○○	○○	○○	○○	○○
6	○○	○○	○○	○○	○○
7	○○	○○	○○	○○	○○

→

	月	火	水	木	金
1	○○	○○	○○	○○	○○
2	○○	○○	○○	○○	○○
6	○○	○○	○○	○○	○○

空いた時間で面談の時間や自学の時間が生まれています。

福島東高等学校の放課後の様子

福島東高等学校の取り組み

令和７年度１学年から標準の授業時数としつつ学力向上の新たな取り組みを始めています。

スクール・サポート・スタッフが活躍中！

～教職員のサポートで、子どもたちによりよい教育環境を～

各学校では現在、「スクール・サポート・スタッフ（SSS）」が教職員の業務を支える大きな力となっています。

SSSとは、学校現場で教職員の業務負担軽減を目的に配置されているスタッフで、学習プリントの印刷、配付文書の印刷・仕分け、教材・教具準備、消毒業務など、さまざまな面で教職員のサポートを行っています。

たとえば、図書室の本の整理や教室掲示の貼り替えなど日常的な業務から、運動会や卒業式といった行事に向けた準備まで、幅広く活躍しています。

こうした支援により、教職員は授業の準備や子どもたちとのかかわりに、より多くの時間とエネルギーを注ぐことが出来るようになりました。

教職員からは『多忙化解消に大変効果があった』『とても助かっている』という声が多くあり、SSSからも『子どもたちとの交流で元気をもらっている』『先生方の仕事を引き受け感謝の言葉をもらうと、役に立てている実感が湧く』などの声も届いています。

今後も、SSSの皆さんの力を借りながら、よりよい学校づくりを目指してまいります。

なお、SSSの募集については、各地区の教育事務所までお問い合わせください。